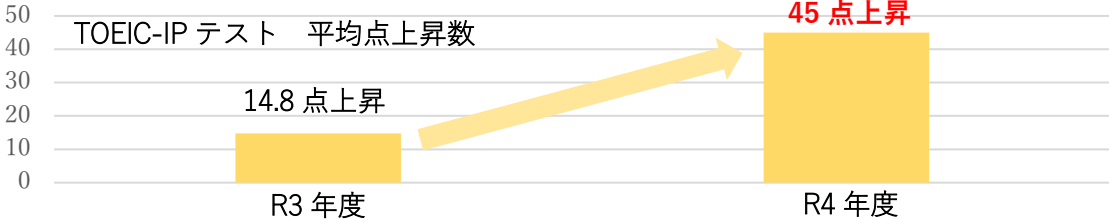


Saito Vision 2021 「Action Plan」 実施状況の自己評価シート

5：当初の想定以上に実施した， 4：十分に実施した， 3：実施した， 2：十分には実施していない， 1：全く実施していない

分野	Action Plan		実施状況	実績
教育	<p>■数理・データサイエンス教育の必修化・高度化</p>	<p>教養科目及び全学部の専門科目で数理・データサイエンス科目の授業を実施</p>	4	<p>【数理・データサイエンス・AI教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度新入生から数理・データサイエンス教育を必修化し「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開設。 本学のプログラムが、令和3年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定。（リテラシーレベル 3,024名修了（R4前学期修了時点）） 工学部のプログラムが、令和4年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に認定。 令和4年度に都市デザイン学部が文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」特定分野校に選定。（～令和9年度まで） <p>【教養教育、専門教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度から、経済学部及び経済学研究科において、日本電気株式会社（NEC）等と組織的連携協力を行い「データサイエンス基礎論」「データサイエンス実践演習」「データサイエンス・プレゼンテーション論」を開講し、産業界からの実践的な課題を教材とした課題解決型のデータサイエンス教育を行った。 令和4年度から教養教育科目に新たに「データサイエンスの世界」（履修者数 51名）及び「データサイエンスの実践」（履修者数 41名）を開設し、データサイエンス科目の充実を図った。 <p>教養科目及び全学部の専門科目で数理・データサイエンス科目の授業を実施しており、対象となる学部学生（約 5,400名）の約半数がすでにリテラシーレベルを修了していることから、実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>

分野	Action Plan		実施状況	実績										
教育	<p>■学生のやる気・ワクワク感を後押しする教育・学生支援の推進</p>	<p>アクティブ・ラーニング等の現代社会の課題に対応した教育を提供</p>	4	<p>【アクティブ・ラーニング型授業を実施】 ・アクティブ・ラーニング型の授業を増加させ、学生の能動的学修を推進した。</p> <p style="text-align: center;">アクティブ・ラーニング型授業実施割合</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>アクティブ・ラーニング型授業実施割合</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実施割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3 前期</td> <td>59.12%</td> </tr> <tr> <td>R3 後期</td> <td>60.18%</td> </tr> <tr> <td>R4 前期</td> <td>69.50%</td> </tr> <tr> <td>R4 後期</td> <td>73.60%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【FDを実施】 ・令和3年度第1回全学FDで「アクティブ・ラーニングの基礎と事例」として各学部及び教養教育院から優れた取組の紹介を行った (R3.6.23)。また、第2回全学FD「学生が主体的に学べるためのクラスデザイン」においては、基調講演とワークショップを開催した。(R3.10.27) ・令和3年度第2回教養教育院FDにおいて「学生と考えるグループワークからPBLへ」を開催した。(R3.12.1)</p> <p>アクティブ・ラーニング型授業実施割合が年々増加しており、第4期中期計画に掲げる「アクティブ・ラーニング型授業の実施割合（全授業のうち、6割以上でアクティブ・ラーニング型授業を実施することを、毎年度継続）を達成していること、またFDを通じて、教員のアクティブ・ラーニング型授業についての理解を深化させることができたことから、実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>	時期	実施割合	R3 前期	59.12%	R3 後期	60.18%	R4 前期	69.50%	R4 後期	73.60%
時期	実施割合													
R3 前期	59.12%													
R3 後期	60.18%													
R4 前期	69.50%													
R4 後期	73.60%													

分野	Action Plan		実施状況	実績																				
教育	■グローバル人材の養成	英語教育の充実	4	<p>・令和3年度入学者から1年次と3年次のTOEIC-IPテストの受験を必須とした。1年次は年2回（4月と1月）実施。（3年次の受験は令和4年度まで任意）</p> <p>・令和4年度から教養教育の英語において、習熟度別のクラス分けを行い、各学生のレベルに応じた英語教育の提供や「基盤英語II」の成績評価においてTOEICスコア（30%）を加味したこと、英語自習学習システムを利用した学習の促進（「基盤英語I」の成績評価（10%））に利用した。等により、令和4年度1年次生の1月に実施したTOEICスコアが4月と比較して全学平均が45点上昇した。</p>  <p>TOEIC-IP テスト 平均点上昇数</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>平均点上昇数</th> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>14.8 点上昇</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>45 点上昇</td> </tr> </table> <p>以上のように、全クラスにおいて統一的成績評価の導入、習熟度別のクラス編成など、教育方法を新たに構築し、その結果1月に実施したTOEICスコアが4月と比較して全学平均が45点上昇しており、学生の英語力向上の効果が出ていることから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>	年度	平均点上昇数	R3年度	14.8 点上昇	R4年度	45 点上昇														
	年度	平均点上昇数																						
R3年度	14.8 点上昇																							
R4年度	45 点上昇																							
	海外語学研修等によるグローバル人材の養成	4	<table border="1"> <thead> <tr> <th>海外語学研修等</th> <th>実施日</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部1年次対象短期海外英語研修（オンライン形式）</td> <td>R4.3</td> <td>33名</td> </tr> <tr> <td>カリフォルニア州立大学サンマルコス校短期海外語学研修</td> <td>R4.8</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>アテネオ・デ・マニラ大学オンライン英語研修</td> <td>R4.9</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>学部1年次対象短期海外英語研修</td> <td>R5.3 予定</td> <td>58名</td> </tr> <tr> <td>TOEFL 対策講座</td> <td>R4.11</td> <td>23名</td> </tr> <tr> <td>TOEFL 対策講座</td> <td>R5.2</td> <td>12名</td> </tr> </tbody> </table> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度はオンラインによる英語研修を実施した。令和4年度はオンラインによる英語研修を実施し、12名の学生が参加したことに加え、出入国制限が段階的に解除されたため、アメリカ、マレーシア、フィリピンの大学への短期海外英語研修を企画し、69名を海外に派遣することができたことから、実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>	海外語学研修等	実施日	参加人数	学部1年次対象短期海外英語研修（オンライン形式）	R4.3	33名	カリフォルニア州立大学サンマルコス校短期海外語学研修	R4.8	11名	アテネオ・デ・マニラ大学オンライン英語研修	R4.9	12名	学部1年次対象短期海外英語研修	R5.3 予定	58名	TOEFL 対策講座	R4.11	23名	TOEFL 対策講座	R5.2	12名
海外語学研修等	実施日	参加人数																						
学部1年次対象短期海外英語研修（オンライン形式）	R4.3	33名																						
カリフォルニア州立大学サンマルコス校短期海外語学研修	R4.8	11名																						
アテネオ・デ・マニラ大学オンライン英語研修	R4.9	12名																						
学部1年次対象短期海外英語研修	R5.3 予定	58名																						
TOEFL 対策講座	R4.11	23名																						
TOEFL 対策講座	R5.2	12名																						

分野	Action Plan		実施状況	実績
	<p>■地域連携授業の推進</p>	<p>北陸信州地域が連携する人材創出プログラム 「ENGINE」を通じて、地域の課題解決力、社会への適応力・実践力を育成</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度からリテラシー強化フェーズ（1年次）において、信州大学・金沢大学・富山大学の3大学で新たに3大学共通科目「地域のトップリーダーを繋ぐ」を開設。（R3_履修者 99名、R4_履修者 94名） ・地域で活躍する社会人との交流会を図るキャリア形成イベント「大しごとーく」及び「しごとーく」を開催。（R3_参加学生数 165名（内「しごとーく」165名）、参加企業数 34社（内「しごとーく」34社）（R4_参加学生数 307名（内「大しごとーく」184名「しごとーく」123名）、参加企業数 37社（内「大しごとーく」32社「しごとーく」5社）） ・地元企業と協力し、課題解決型インターンシップ「ENGINE インターンシップ」を開催。（R4_参加者 14名） <p>事業での取組の成果により、令和4年度の間評価で「A」評価となったことから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>
教育	<p>■大学院の再編</p>	<p>文理融合教育を充実させ、領域の異なる複数教員による研究指導で多角的思考力を育成</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・文理融合大学院「持続可能社会創成学環」（修士課程）設置。（R4.4） 入学者計 30名（4月入学者数_26名、10月入学者数_4名） 入学定員 18名（充足率：166.7%） ・大学院修士課程の全学生が履修する「大学院共通科目」を導入。（R4.4） ・全研究科・学環修士課程において複数教員研究指導制度を導入。（R4.4） ・領域の異なる複数教員による研究指導の割合 37.2%（R4.11時点） （内訳）持続可能社会創成学環 100.0%（中期計画目標値：50%） 上記以外の研究科・学環 33.6%（中期計画目標値：24%） <p>以上により、文理融合大学院に定員を上回る入学者があり、領域の異なる複数教員指導体制についても、想定を上回る割合で構築できたことから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>

分野	Action Plan		実施状況	実績												
	<p>■外国人留学生に対応した教育・環境の充実</p>	<p>留学生宿舍の整備 ダブルディグリープログラムの充実・推進による大学院教育の国際化</p>	3	<p>【留学生宿舍の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五福国際交流会館でインターネット定額サービスの運用開始。(R4.4) ・五福国際交流会館に宅配ボックスを設置。(R4.6) ・杉谷国際交流会館の外壁等改修工事を実施。(R4.8～11) ・杉谷国際交流会館でインターネット定額サービスのための工事を実施中 (R5.2) 令和 5 年 4 月からサービス提供予定。 <p>【ダブルディグリープログラムの充実・推進による大学院教育の国際化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カメリーノ大学とダブルディグリープログラムの実施を企図した大学間学術交流協定を締結。(R4.2) ・外国語又はバイリンガルで開講可能な授業科目に関する調査を実施。(R4.5) (外国語又はバイリンガル対応可能科目数：学部 88 科目、大学院 173 科目) ・英語による授業実施のための教員研修を実施。(R4.9_延べ参加者数 21 名) ・カメリーノ大学とダブルディグリープログラムの実施に向けた協議を実施。(R5.3 予定) 												
教育	<p>■高大接続</p>	<p>富山県と連携した高大連携事業の促進による魅力発信</p>	4	<table border="1" data-bbox="741 794 1888 975"> <thead> <tr> <th>実施した高大連携事業</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高大接続事業の拡充に向けた県内高校等への訪問</td> <td>24 件</td> <td>63 件</td> </tr> <tr> <td>模擬授業、大学説明会等による高校生を対象としたキャリアデザイン構築のための支援</td> <td>46 件</td> <td>59 件</td> </tr> <tr> <td>高等学校が主催するキャリアデザイン構築のための大学見学受入れ</td> <td>17 件</td> <td>19 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・県内高校において、課題研究等の探究活動に関する指導・助言を行ったほか、社会や地域の課題解決をテーマに、探究的な活動を進めてきた高校の代表生徒が、その成果を発表し、交流会を通じて、生徒同士のつながりを深め、探究的活動の一層の充実をはかるため G7 富山・金沢教育大臣会合開催記念事業「とやま探求フォーラム」を開催した。 (R3_参加校 6 校・テーマ数 6 件、R4_参加校 18 校・テーマ数 36 件)</p> <p>・県教育委員会の事業において「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』アカデミック・インターンシップ」を受け入れ、高大連携による学力育成のための取り組みを行った。(R3_5 学部で 65 名受入、R4_全 9 学部で 163 名受入)</p> <p>以上により、富山県と連携した事業を展開・拡充していることから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>	実施した高大連携事業	R3	R4	高大接続事業の拡充に向けた県内高校等への訪問	24 件	63 件	模擬授業、大学説明会等による高校生を対象としたキャリアデザイン構築のための支援	46 件	59 件	高等学校が主催するキャリアデザイン構築のための大学見学受入れ	17 件	19 件
実施した高大連携事業	R3	R4														
高大接続事業の拡充に向けた県内高校等への訪問	24 件	63 件														
模擬授業、大学説明会等による高校生を対象としたキャリアデザイン構築のための支援	46 件	59 件														
高等学校が主催するキャリアデザイン構築のための大学見学受入れ	17 件	19 件														

分野	Action Plan		実施状況	実績																										
研究	<p>■ 社会の課題解決に寄与する研究の推進</p>	<p>本学の“強み”となる5分野（カーボンニュートラル、創薬・ヘルスケア、軽金属、データサイエンス、文化財保護）の研究や技術により世界の課題解決に貢献するとともに社会実装を推進</p>	3	<p>【共通】 ・「令和4年度 地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択。(1.5億円×2年)(R4.10～)</p> <table border="1" data-bbox="741 344 1895 563"> <thead> <tr> <th>カーボンニュートラル</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NEDO 事業実施「CO2を原料としたパラキシレン製造に関する技術開発」</td> <td>R2.7～R5.3</td> </tr> <tr> <td>NEDO 事業採択・実施「カーボンリサイクル LPG 製造技術とプロセスの研究開発」</td> <td>R4.4～R7.3</td> </tr> <tr> <td>NEDO 事業採択・実施（タイ王国にて稼働中）「CO2ダイレクト利用ジェット燃料合成によるカーボンリサイクルの国際共同研究開発」</td> <td>R4.12～R5.11</td> </tr> </tbody> </table> <p>・椿範立教授が令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞 研究部門」を受賞。(R4.5)</p> <table border="1" data-bbox="741 632 1895 987"> <thead> <tr> <th>創薬・ヘルスケア</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本学初の「芍薬甘草湯」医師主導治験を開始し、今後も継続的な医師主導による研究実施を予定</td> <td>R3.12～</td> </tr> <tr> <td>「カスタムメイドインプラント」「乳房再建器具」の各研究が安全性試験等を完了し、各種承認申請を終え、間もなく商品化に至る いずれも新規性を持った社会実装となることから当該研究への支援を開始</td> <td>R3.11～</td> </tr> <tr> <td>その他世界の課題解決に貢献する可能性のあるシーズレベル研究を発掘し支援している</td> <td>R3.11～</td> </tr> <tr> <td>新興感染症に対する抗体薬や診断薬を迅速に作出する研究を推進するため、先端抗体医薬開発センターを設置</td> <td>R4.4～</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="741 1023 1895 1201"> <thead> <tr> <th>軽金属</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熊本大学と共同し、先進軽金属材料国際研究機構（以下、ILM）を設置</td> <td>R3.4～</td> </tr> <tr> <td>「令和3年度 産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」事業に採択（10億円）</td> <td>R4.3～</td> </tr> <tr> <td>ILMが共同利用・共同研究拠点に認定</td> <td>R4.4～</td> </tr> </tbody> </table>	カーボンニュートラル	実施時期	NEDO 事業実施「CO2を原料としたパラキシレン製造に関する技術開発」	R2.7～R5.3	NEDO 事業採択・実施「カーボンリサイクル LPG 製造技術とプロセスの研究開発」	R4.4～R7.3	NEDO 事業採択・実施（タイ王国にて稼働中）「CO2ダイレクト利用ジェット燃料合成によるカーボンリサイクルの国際共同研究開発」	R4.12～R5.11	創薬・ヘルスケア	実施時期	本学初の「芍薬甘草湯」医師主導治験を開始し、今後も継続的な医師主導による研究実施を予定	R3.12～	「カスタムメイドインプラント」「乳房再建器具」の各研究が安全性試験等を完了し、各種承認申請を終え、間もなく商品化に至る いずれも新規性を持った社会実装となることから当該研究への支援を開始	R3.11～	その他世界の課題解決に貢献する可能性のあるシーズレベル研究を発掘し支援している	R3.11～	新興感染症に対する抗体薬や診断薬を迅速に作出する研究を推進するため、先端抗体医薬開発センターを設置	R4.4～	軽金属	実施時期	熊本大学と共同し、先進軽金属材料国際研究機構（以下、ILM）を設置	R3.4～	「令和3年度 産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」事業に採択（10億円）	R4.3～	ILMが共同利用・共同研究拠点に認定	R4.4～
				カーボンニュートラル	実施時期																									
				NEDO 事業実施「CO2を原料としたパラキシレン製造に関する技術開発」	R2.7～R5.3																									
				NEDO 事業採択・実施「カーボンリサイクル LPG 製造技術とプロセスの研究開発」	R4.4～R7.3																									
				NEDO 事業採択・実施（タイ王国にて稼働中）「CO2ダイレクト利用ジェット燃料合成によるカーボンリサイクルの国際共同研究開発」	R4.12～R5.11																									
				創薬・ヘルスケア	実施時期																									
				本学初の「芍薬甘草湯」医師主導治験を開始し、今後も継続的な医師主導による研究実施を予定	R3.12～																									
				「カスタムメイドインプラント」「乳房再建器具」の各研究が安全性試験等を完了し、各種承認申請を終え、間もなく商品化に至る いずれも新規性を持った社会実装となることから当該研究への支援を開始	R3.11～																									
				その他世界の課題解決に貢献する可能性のあるシーズレベル研究を発掘し支援している	R3.11～																									
				新興感染症に対する抗体薬や診断薬を迅速に作出する研究を推進するため、先端抗体医薬開発センターを設置	R4.4～																									
				軽金属	実施時期																									
				熊本大学と共同し、先進軽金属材料国際研究機構（以下、ILM）を設置	R3.4～																									
				「令和3年度 産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」事業に採択（10億円）	R4.3～																									
				ILMが共同利用・共同研究拠点に認定	R4.4～																									

分野	Action Plan		実施状況	実績		
研究			ILM が三大軽金属協会との包括連携協定を締結 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)【地域共創分野(育成型)】に採択 (2,500 万円×2 年) YKKAP (株) をはじめとした企業等からの寄付 (約 1,400 万円)	R4.6～		
				R4.10～		
				R4.5～		
			データサイエンス			実施時期
			小、中、高校向けのデータサイエンス用教材を刊行し、その有効性の調査・分析を行った。その成果を国際学会等に投稿	R4.4～		
			経済学部データサイエンス寄附講座と連携し、県内延べ 12 企業と社会実装に向けた課題研究を実施	R3.4～		
			学長裁量経費地域活性化推進として、「ウェルビーイング関連研究の融合による富大発新たな街づくり概念の創成」を進め、データサイエンスを活用した研究融合の可能性を探った	R4.4～		
			文化財保護			実施時期
			城端及び高岡の曳山修復を実施	R4		
			二上射水神社の祭礼用「四天王及び天狗面」の 3D スキャニングを実施し、復元新調を実施	R4		
			唐津曳山 (赤獅子) の 3D スキャニングを実施し、1/8 模型を作成	R4		
			アルザス欧州日本研究センター(CEEJA)との連携を開始	R4.10～		
			ユネスコおよびネパール政府との歴史的建築物修復に対する協働体制を推進	R4.9～		
			日本国内の歴史的建築物 3D スキャン化に向けて活動を開始	R5.1～		
			歴史的建築物修復に関する論文発表：CEAC 2023 Best Paper 候補	R5.3.18		

分野	Action Plan		実施状況	実績																				
		熊本大学との連携により設置する先進軽金属材料国際研究機構において、それぞれの強みを活かした共同研究を推進	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ILM の令和4年度拠点公募課題として、33件の共同研究を採択。(うち、富山大学の教員が代表者または分担者であるものは11件) (R4.7~) ・三協立山株式会社と、アルミリサイクル及び押出加工の革新研究を目的とした共同研究講座を設置。(R4.8~) ・アルミリサイクル技術実証・検証ミニプラント「Plant Zero」を設置する共同研究棟を新設。オープンラボ等を活用し、更なる共同研究の推進を目指す。(R5.8完成予定) <p>以上のとおり、実際に共同研究を開始し、共同研究講座も設置したことに加え、さらなる共同研究の推進に寄与する、建物を含めた設備整備を強力に推進していることから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>																				
研究	■東西医薬学融合研究の推進	東西医薬学の融合による次世代型医療科学を創出し、国内外研究機関との連携を拡大し強固なものとし、伝統医薬学研究の中核拠点を担う体制を強化	3	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="741 624 1715 660">実施した取組</th> <th data-bbox="1715 624 1895 660">実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="741 660 1715 730">慶應義塾大学先端生命科学研究所、本学の腸内細菌研究グループと和漢研とのマイクロバイオーム共同研究継続実施</td> <td data-bbox="1715 660 1895 730">R2.6~</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 730 1715 836">和漢研教員が医学部・附属病院と連携した特定臨床研究継続実施 ①軽度アルツハイマー型認知症等への山芋エキスの有効性検討 ②頸椎症性脊髄症へのニクジュヨウエキスの有効性検討</td> <td data-bbox="1715 730 1895 836">①R2.7~ ②R2.12~</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 836 1715 941">和漢研で、公募型共同研究(特定研究)(所内重点研究プロジェクト関連研究6課題)及び和漢薬ライブラリー(生薬エキス、漢方方剤エキス、生薬由来化合物)を用いた公募型探索研究の実施。研究結果は年報や伝統医薬データベースで公開</td> <td data-bbox="1715 836 1895 941">R3、R4</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 941 1715 1011">東西医薬学交流セミナー(和漢研主催、医学部・薬学部・附属病院等との部局横断セミナー)を年2回継続実施</td> <td data-bbox="1715 941 1895 1011">R3、R4</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 1011 1715 1152">第16回国際伝統医薬シンポジウム富山2021(和漢研主催、富山県後援)において、タイ・チュラロンコン大学薬学部、ベトナム・フエ医科薬科大学薬学部、インドネシア・ハサヌディン大学薬学部及び和漢研の代表者が参加し「伝統医薬ネットワークサミット」を開催</td> <td data-bbox="1715 1011 1895 1152">R3.11</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 1152 1715 1190">薬用資源ライブラリー強化のため、和漢研に「薬用資源管理部門」を新設</td> <td data-bbox="1715 1152 1895 1190">R4.10~</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 1190 1715 1260">和漢研教員が、タイ・チュラロンコン大学薬学部長及びインドネシア・ハサヌディン大学副学長(前薬学部長)と国際連携型共同研究等について意見交換</td> <td data-bbox="1715 1190 1895 1260">R4.10</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 1260 1715 1299">和漢研がインドネシア・ガジャマダ大学薬学部と部局間交流協定締結</td> <td data-bbox="1715 1260 1895 1299">R4.11~</td> </tr> <tr> <td data-bbox="741 1299 1715 1401">熊本大学グローバル天然物科学研究センター及び本学臨床研究管理センター等教員を講師として、和漢研特別セミナー「オール富山大学での創薬・ヘルスケア社会実装共創拠点の形成に向けて」を開催</td> <td data-bbox="1715 1299 1895 1401">R4.11</td> </tr> </tbody> </table>	実施した取組	実施時期	慶應義塾大学先端生命科学研究所、本学の腸内細菌研究グループと和漢研とのマイクロバイオーム共同研究継続実施	R2.6~	和漢研教員が医学部・附属病院と連携した特定臨床研究継続実施 ①軽度アルツハイマー型認知症等への山芋エキスの有効性検討 ②頸椎症性脊髄症へのニクジュヨウエキスの有効性検討	①R2.7~ ②R2.12~	和漢研で、公募型共同研究(特定研究)(所内重点研究プロジェクト関連研究6課題)及び和漢薬ライブラリー(生薬エキス、漢方方剤エキス、生薬由来化合物)を用いた公募型探索研究の実施。研究結果は年報や伝統医薬データベースで公開	R3、R4	東西医薬学交流セミナー(和漢研主催、医学部・薬学部・附属病院等との部局横断セミナー)を年2回継続実施	R3、R4	第16回国際伝統医薬シンポジウム富山2021(和漢研主催、富山県後援)において、タイ・チュラロンコン大学薬学部、ベトナム・フエ医科薬科大学薬学部、インドネシア・ハサヌディン大学薬学部及び和漢研の代表者が参加し「伝統医薬ネットワークサミット」を開催	R3.11	薬用資源ライブラリー強化のため、和漢研に「薬用資源管理部門」を新設	R4.10~	和漢研教員が、タイ・チュラロンコン大学薬学部長及びインドネシア・ハサヌディン大学副学長(前薬学部長)と国際連携型共同研究等について意見交換	R4.10	和漢研がインドネシア・ガジャマダ大学薬学部と部局間交流協定締結	R4.11~	熊本大学グローバル天然物科学研究センター及び本学臨床研究管理センター等教員を講師として、和漢研特別セミナー「オール富山大学での創薬・ヘルスケア社会実装共創拠点の形成に向けて」を開催	R4.11
実施した取組	実施時期																							
慶應義塾大学先端生命科学研究所、本学の腸内細菌研究グループと和漢研とのマイクロバイオーム共同研究継続実施	R2.6~																							
和漢研教員が医学部・附属病院と連携した特定臨床研究継続実施 ①軽度アルツハイマー型認知症等への山芋エキスの有効性検討 ②頸椎症性脊髄症へのニクジュヨウエキスの有効性検討	①R2.7~ ②R2.12~																							
和漢研で、公募型共同研究(特定研究)(所内重点研究プロジェクト関連研究6課題)及び和漢薬ライブラリー(生薬エキス、漢方方剤エキス、生薬由来化合物)を用いた公募型探索研究の実施。研究結果は年報や伝統医薬データベースで公開	R3、R4																							
東西医薬学交流セミナー(和漢研主催、医学部・薬学部・附属病院等との部局横断セミナー)を年2回継続実施	R3、R4																							
第16回国際伝統医薬シンポジウム富山2021(和漢研主催、富山県後援)において、タイ・チュラロンコン大学薬学部、ベトナム・フエ医科薬科大学薬学部、インドネシア・ハサヌディン大学薬学部及び和漢研の代表者が参加し「伝統医薬ネットワークサミット」を開催	R3.11																							
薬用資源ライブラリー強化のため、和漢研に「薬用資源管理部門」を新設	R4.10~																							
和漢研教員が、タイ・チュラロンコン大学薬学部長及びインドネシア・ハサヌディン大学副学長(前薬学部長)と国際連携型共同研究等について意見交換	R4.10																							
和漢研がインドネシア・ガジャマダ大学薬学部と部局間交流協定締結	R4.11~																							
熊本大学グローバル天然物科学研究センター及び本学臨床研究管理センター等教員を講師として、和漢研特別セミナー「オール富山大学での創薬・ヘルスケア社会実装共創拠点の形成に向けて」を開催	R4.11																							

分野	Action Plan		実施 状況	実績
研究	<p>■世界トップレベルの研究拠点を形成</p>	<p>アイドリング脳研究を中心とした脳神経科学・未病の科学化等の世界トップレベル研究を進展させ、その成果を世界へ発信</p>	4	<p>・令和4年度の外部からの競争的研究資金獲得実績 計1億8,076万円 (R5.2)</p> <p>・IF10以上の論文(講座メンバーが筆頭著者または責任著者のもののみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Proc Natl Acad Sci USA (IF:11.205) 119 (32)、2022 Mohamed H. Aly、Kareem Abdou、Reiko Okubo-Suzuki、Masanori Nomoto、and Kaoru Inokuchi. ◆ Neuron (IF:17.173) 110 (20)、3227-3229、2022 Ali Choucry、Khaled Ghandour and Kaoru Inokuchi. ◆ Nature Communications (IF:17.763) 13: 7413、2022 Nomoto Masanori、Murayama Emi、Ohno Shuntaro、Okubo-Suzuki Reiko、Muramatsu Shin-ichi and Inokuchi Kaoru. <p>・顕著な講演・学会発表(特別講演、あるいはそれに準ずるもののみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Neuroscience 2022(北米神経科学学会)(R4.11) Kaoru Inokuchi [Special Lecture] Idling Brain: From Engram to Behavior. <p>以上により、国際的トップジャーナルに3編の研究論文を公表し、また、アメリカ神経科学会の年會に特別講演の演者として招待されるなどの成果をあげ、世界トップレベルの研究拠点を形成したと判断されることから実施状況を「4:十分に実施した」とした。</p>

分野	Action Plan		実施状況	実績																	
社会貢献	<p>■地方創生の推進</p>	<p>自治体・産業界等と連携・協働し、新たな産業・魅力ある地域づくりに貢献し、学生と地元企業とのマッチング機会を提供</p>	4	<table border="1" data-bbox="741 236 1895 767"> <thead> <tr> <th></th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の地元定着に向けた企業側の意識の向上を図るため「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講（H30.9～）</td> <td>R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 18名</td> </tr> <tr> <td>富山“Re-Design”ラボ実施（R4.7～）</td> <td>R4_第1期修了者 7名</td> </tr> <tr> <td>なんと未来創造塾を継続して実施（R2.10～）</td> <td>R3_第2期修了者 9名 R4_第3期修了者 10名</td> </tr> <tr> <td>とやま未来青果塾を継続して実施（R2.8～）</td> <td>R2,3_第1期修了者 14名</td> </tr> <tr> <td>とやま呉西圏域共創ビジネス研究所を継続して実施（H29.7～）</td> <td>R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 8名</td> </tr> <tr> <td>ファーマ・メディカル エンジニア養成プログラム（理工学教育部 修士課程：H26.4～R5.3）</td> <td>R3_第7期履修者 27名 修了者 4名 R4_第8期履修者 34名 修了者 7名</td> </tr> <tr> <td>ファーマ・メディカル キャリアデザイン支援プロジェクト（理工学研究科・医薬理工学環 修士課程：R4.4～）</td> <td>R4_第1期履修者 103名</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域基幹産業を再定義・創新する人材創出プログラム「ENGINE」を継続実施し、中間評価「A」を取得。（R2.11～）</p> <p>人材創出プログラム「ENGINE」で中間評価「A」を取得したことや、「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」、「たなべ未来創造塾」などの人材育成塾及び企業の求人力を高める「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講し、多くの修了者を輩出し成果をあげた。また、今年度から始まった「富山“Re-Design”ラボ」では第1期修了者を7名輩出し、内6名が県内定着となり、当初の目標を十分に達成することができたことから、実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>		参加者数	学生の地元定着に向けた企業側の意識の向上を図るため「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講（H30.9～）	R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 18名	富山“Re-Design”ラボ実施（R4.7～）	R4_第1期修了者 7名	なんと未来創造塾を継続して実施（R2.10～）	R3_第2期修了者 9名 R4_第3期修了者 10名	とやま未来青果塾を継続して実施（R2.8～）	R2,3_第1期修了者 14名	とやま呉西圏域共創ビジネス研究所を継続して実施（H29.7～）	R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 8名	ファーマ・メディカル エンジニア養成プログラム（理工学教育部 修士課程：H26.4～R5.3）	R3_第7期履修者 27名 修了者 4名 R4_第8期履修者 34名 修了者 7名	ファーマ・メディカル キャリアデザイン支援プロジェクト（理工学研究科・医薬理工学環 修士課程：R4.4～）	R4_第1期履修者 103名	
		参加者数																			
学生の地元定着に向けた企業側の意識の向上を図るため「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講（H30.9～）	R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 18名																				
富山“Re-Design”ラボ実施（R4.7～）	R4_第1期修了者 7名																				
なんと未来創造塾を継続して実施（R2.10～）	R3_第2期修了者 9名 R4_第3期修了者 10名																				
とやま未来青果塾を継続して実施（R2.8～）	R2,3_第1期修了者 14名																				
とやま呉西圏域共創ビジネス研究所を継続して実施（H29.7～）	R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 8名																				
ファーマ・メディカル エンジニア養成プログラム（理工学教育部 修士課程：H26.4～R5.3）	R3_第7期履修者 27名 修了者 4名 R4_第8期履修者 34名 修了者 7名																				
ファーマ・メディカル キャリアデザイン支援プロジェクト（理工学研究科・医薬理工学環 修士課程：R4.4～）	R4_第1期履修者 103名																				
<p>■地域の交流拠点</p>	<p>身近なアカデミアとして、人々に多様で魅力的な交流機会を提供し、住民の誇りにできる大学づくりを展開</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座やオープン・クラスを受講する一般市民が専用で利用できるスペースとして、これまでも共通教育棟B棟2階に「アカデミールーム」「オープンサロン」を設置し、交流の場として提供していたが、この度、ミーティングテーブル、椅子等の設備を更新し利便性を高めた。（R5.2） ・ホームカミングデーを開催し、大学の現状を広報した。（R3.10、R4.10） ・富山大学主催「共助による地域除雪を考えるフォーラム」をオンライン開催。（R4.11.19_参加者 43名） 																		

分野	Action Plan	実施状況	実績																																				
社会貢献	■リカレント教育の充実 変化が早く、激しい社会に対応できるように、現役世代向けに実践的で学びやすいリカレント教育を充実	3	<p>【リカレント教育の取組】</p> <table border="1" data-bbox="741 268 1895 555"> <thead> <tr> <th></th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」(H29.7～)、「たなべ未来創造塾」(H28.7～)などの人材育成塾を継続実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>企業の求人力を高める「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講 (H30.9～)</td> <td>R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 18名</td> </tr> <tr> <td>富山“Re-Design”ラボ実施 (R4.7～)</td> <td>R4_第1期修了者 7名</td> </tr> <tr> <td>「次世代スーパーエンジニアリング講座」を継続開講 (H23～)</td> <td>R3_延べ受講者 317名 R4_延べ受講者 308名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【公開講座を通じたりカレント教育】</p> <p>・公開講座については、令和3年度後期より申請手続きのデジタル化を進め、令和4年度はオンライン講座（全65講座中10講座）や資格取得系の講座を開講するなど、現役社会人がより学びやすい環境を整備した。</p> <p>【データサイエンスの取組】</p> <table border="1" data-bbox="741 762 1895 1477"> <thead> <tr> <th></th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富山県・富山市並びに富山大学で組織する「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を立ち上げ次の事業に取り組んだ (R3.6～)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校教員向けのICT・DS教育研修支援を実施 (R3.7.16～)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オンラインセミナーを実施</td> <td>R3_総受講者 860名 R4_総受講者 373名</td> </tr> <tr> <td>オンデマンドコンテンツ配信を実施 (R3_コンテンツ 31本作成)</td> <td>R3_受講者数未集計 R4_延べ受講者 490名</td> </tr> <tr> <td>学校への講師派遣を実施</td> <td>R3_延べ受講者 143名 R4_延べ受講者 1,274名</td> </tr> <tr> <td>県教委の研修支援を実施</td> <td>R3_延べ受講者 109名 R4_延べ受講者 399名</td> </tr> <tr> <td>保護者向け研修を実施 (R3_6回実施、R4_3回実施)</td> <td>R3_延べ受講者 206名 R4_延べ受講者 110名</td> </tr> <tr> <td>社会人向けデータサイエンス特別講座等を実施 (R3.7.16～)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レベルに応じたオンデマンドコンテンツの配信</td> <td>R3_延べ受講者 535名 R4_延べ受講者 457名</td> </tr> <tr> <td>企業の実例を参考にしたデータサイエンスセミナーを実施</td> <td>R4_延べ受講者 237名</td> </tr> <tr> <td>対面でのデータサイエンス特別実習の実施</td> <td>R4_受講者 7名</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験支援講座を実施</td> <td>R3_受講者 11名</td> </tr> </tbody> </table>		参加者数	「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」(H29.7～)、「たなべ未来創造塾」(H28.7～)などの人材育成塾を継続実施		企業の求人力を高める「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講 (H30.9～)	R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 18名	富山“Re-Design”ラボ実施 (R4.7～)	R4_第1期修了者 7名	「次世代スーパーエンジニアリング講座」を継続開講 (H23～)	R3_延べ受講者 317名 R4_延べ受講者 308名		参加者数	富山県・富山市並びに富山大学で組織する「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を立ち上げ次の事業に取り組んだ (R3.6～)		学校教員向けのICT・DS教育研修支援を実施 (R3.7.16～)		オンラインセミナーを実施	R3_総受講者 860名 R4_総受講者 373名	オンデマンドコンテンツ配信を実施 (R3_コンテンツ 31本作成)	R3_受講者数未集計 R4_延べ受講者 490名	学校への講師派遣を実施	R3_延べ受講者 143名 R4_延べ受講者 1,274名	県教委の研修支援を実施	R3_延べ受講者 109名 R4_延べ受講者 399名	保護者向け研修を実施 (R3_6回実施、R4_3回実施)	R3_延べ受講者 206名 R4_延べ受講者 110名	社会人向けデータサイエンス特別講座等を実施 (R3.7.16～)		レベルに応じたオンデマンドコンテンツの配信	R3_延べ受講者 535名 R4_延べ受講者 457名	企業の実例を参考にしたデータサイエンスセミナーを実施	R4_延べ受講者 237名	対面でのデータサイエンス特別実習の実施	R4_受講者 7名	ITパスポート試験支援講座を実施	R3_受講者 11名
				参加者数																																			
			「とやま呉西圏域共創ビジネス研究所」(H29.7～)、「たなべ未来創造塾」(H28.7～)などの人材育成塾を継続実施																																				
			企業の求人力を高める「TOYAMA 採用イノベーションスクール」を継続して開講 (H30.9～)	R3_第4期修了者 10名 R4_第5期修了者 18名																																			
			富山“Re-Design”ラボ実施 (R4.7～)	R4_第1期修了者 7名																																			
			「次世代スーパーエンジニアリング講座」を継続開講 (H23～)	R3_延べ受講者 317名 R4_延べ受講者 308名																																			
				参加者数																																			
			富山県・富山市並びに富山大学で組織する「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」を立ち上げ次の事業に取り組んだ (R3.6～)																																				
			学校教員向けのICT・DS教育研修支援を実施 (R3.7.16～)																																				
			オンラインセミナーを実施	R3_総受講者 860名 R4_総受講者 373名																																			
			オンデマンドコンテンツ配信を実施 (R3_コンテンツ 31本作成)	R3_受講者数未集計 R4_延べ受講者 490名																																			
			学校への講師派遣を実施	R3_延べ受講者 143名 R4_延べ受講者 1,274名																																			
県教委の研修支援を実施	R3_延べ受講者 109名 R4_延べ受講者 399名																																						
保護者向け研修を実施 (R3_6回実施、R4_3回実施)	R3_延べ受講者 206名 R4_延べ受講者 110名																																						
社会人向けデータサイエンス特別講座等を実施 (R3.7.16～)																																							
レベルに応じたオンデマンドコンテンツの配信	R3_延べ受講者 535名 R4_延べ受講者 457名																																						
企業の実例を参考にしたデータサイエンスセミナーを実施	R4_延べ受講者 237名																																						
対面でのデータサイエンス特別実習の実施	R4_受講者 7名																																						
ITパスポート試験支援講座を実施	R3_受講者 11名																																						

分野	Action Plan		実施状況	実績	
				基本情報処理技術者試験支援講座を実施 DX学修セミナー等の実施（R3.7.16～） （R3_2回実施、R4_4回実施）	R4_受講者 100名 R3_受講者 10名 R3_延べ受講者 1,033名 R4_延べ受講者 487名
社会貢献	■高度先進医療の提供	地域医療の最後の砦として、高度先進医療を提供。また、新型コロナウイルス感染症の治療と教育研究を適切に行う	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども医療センター」を設置し「こどものこころと発達診療科」を整備。（R4.6） ・「呼吸器外科」を整備。（R4.7） ・（一社）外保連の手術難易度別手術件数としては、コロナ禍前3か年度（H29-R1）の難易度Dの平均件数は5,530件であったが、コロナ禍後2か年度（R2～R3）平均は6,022件となっており令和4年度も12月までの実績で5,472件となっている。 ・難易度Eのコロナ禍前3か年度平均は340件、コロナ禍後2か年度平均は384件、令和4年度も12月までの実績で278件となっている。 ・新型コロナウイルス感染症については、令和4年度入院患者270名（うち重症29名（令和4年度1月末現在））を受け入れつつ、院内感染を未然に防ぎ、通常診療を継続。また、治療を行うと同時に患者から得られたデータをもとに新型コロナウイルス感染症の研究を進めている。 ・富山県からの依頼を受け、県内の医療機関、介護施設等に医師、看護師を4回派遣しクラスター対応を行う等地域医療に貢献した。 <p>以上、手術難易度別手術件数（難易度D,E）が伸びていること、コロナ対応において富山県の依頼を受け、県内の医療機関、介護施設等に医師、看護師を4回派遣しクラスター対応を行ったこと、院内感染を防ぎつつ通常診療を継続したことから、実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>	

分野	Action Plan	実施状況	実績															
	<p>■SDGs 教育の充実</p>	<p>世界との連携を目指したグローバルSDGs 教育の充実</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の大学院改組により大学院持続可能社会創成学環を設置。同学環のグローバルSDGsプログラムでは、持続可能な社会の構築に必要な諸課題について、自らが新たな知を創造してさらなる価値を生み出す能力と、グローバルに活躍するための英語力を身につけ、諸課題の解決策を示すことができる国際人材の育成を目指した教育を実施。 令和4年度入学者（定員10名）17名（6） 令和5年度入学予定者（定員10名）16名（10） ※10月入学も含む。かっこ内は、外国人留学生数（内数） ・同学環の設置に関連し、持続可能な開発のための教育（ESD）に関する大学院教育と研究を前進させるため、国連大学サステイナビリティ高等研究所が主催する国際ネットワーク「ProSPER.Net」に加入するとともに、国際会議を開催。（延べ参加者数160名） 『(ユネスコ政府間海洋学委員会 WESTPAC) International brainstorming workshop on healthy & sustainable terrestrial and coastal waters』(R4.11.30) 『University of Toyama Sustainability Science Conference 2023』(R5.1.20～1.21 開催) ・本学が任命したりエゾンプrofessor 3名（インドネシア、バングラデシュ、カメルーン）がSDGsプログラムに参画しており、ASEAN等サテライトラボラトリー網の構築と共にSDGs教育陣営の充実を図った。 ・大学の社会貢献の取組を国際連合が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の枠組みを用いて可視化した「THEインパクトランキング2022」において、以下の目標（3, 6, 14）で高い評価を得て2021年から総合順位が上昇した。 <table border="1" data-bbox="763 794 1832 1155"> <thead> <tr> <th></th> <th>2021年順位</th> <th>2022年順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合順位</td> <td>601-800 (国内33位タイ)</td> <td>301-400 (国内15位タイ)</td> </tr> <tr> <td>目標3 「すべての人に健康と福祉を」</td> <td>401-600 (国内30位タイ)</td> <td>301-400 (国内24位タイ)</td> </tr> <tr> <td>目標6 「安全な水とトイレを世界中に」</td> <td>201-300 (国内11位タイ)</td> <td>101-200 (国内9位タイ)</td> </tr> <tr> <td>目標14 「海の豊かさを守ろう」</td> <td>101-200 (国内4位タイ)</td> <td>=87位 (国内7位)</td> </tr> </tbody> </table> <p>以上により、令和4年度に新設したばかりの大学院持続可能社会創成学環が中心となり、海外と連携したSDGs教育プログラムを実施し、「THEインパクトランキング2022」において総合順位が上昇したことから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>		2021年順位	2022年順位	総合順位	601-800 (国内33位タイ)	301-400 (国内15位タイ)	目標3 「すべての人に健康と福祉を」	401-600 (国内30位タイ)	301-400 (国内24位タイ)	目標6 「安全な水とトイレを世界中に」	201-300 (国内11位タイ)	101-200 (国内9位タイ)	目標14 「海の豊かさを守ろう」	101-200 (国内4位タイ)	=87位 (国内7位)
		2021年順位	2022年順位															
総合順位	601-800 (国内33位タイ)	301-400 (国内15位タイ)																
目標3 「すべての人に健康と福祉を」	401-600 (国内30位タイ)	301-400 (国内24位タイ)																
目標6 「安全な水とトイレを世界中に」	201-300 (国内11位タイ)	101-200 (国内9位タイ)																
目標14 「海の豊かさを守ろう」	101-200 (国内4位タイ)	=87位 (国内7位)																

分野	Action Plan		実施 状況	実績
大学 運 営	■ガバナンスの 強化	学長と教職員が充 分なコミュニケー ションにより目標 等を共有し、学長 が健全なリーダー シップを発揮でき る体制を構築	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学長の大学運営に関するビジョンとして策定した本 Saito Vision 2021 及び Action Plan の公表にあたり、3 キャンパスで説明会を開催し、具体的な内容について教職員等に向けて直接説明する機会を設けた。 ・上記説明会にあたり、第4期中期目標・中期計画についても併せて説明を行い、具体的な達成目標や実施事項について説明を行った。
	■IR の活用	人員の強化と各機 構との連携によ り、より大きな規 模で専門的な IR を 実施し、課題を解 決	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・学生支援機構において教学 IR として「2018～2021 年度の DP 達成度の変化 (R4.7)」「令和3年度富山大学入学生の TOEIC IP テスト実施結果報告 (R4.3)」を取りまとめ、教育研究評議会で報告し学内で共有した。また、一般選抜前期日程における学外試験場の取扱いを検討するため入学後の GPA や入試得点等から「入学試験会場(富山大学、名古屋、関東)の比較調査」の IR 分析を行い、その報告を元に執行部において令和5年度(令和6年度入試)から関東試験場を廃止することを決定した。 ・研究推進機構において、研究者に関する研究成果、研究分野、研究資金獲得状況等を統合的に検索できるデータベースを作成し、研究者の外部資金獲得の支援に役立てており、令和4年度にデータベースのリバイスを行った。(R4.8) ・研究 IR 業務に従事する URA が戦略的に関与して大型の競争的資金に申請し下記のとおり複数の事業に採択される等、外部資金獲得に貢献した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度 地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択(1.5億円×2年)(R4.10～) ・「令和3年度 産学連携推進事業費補助金(地域の中核大学の産学融合拠点の整備)」事業に採択(10億円)(R4.3～) ・「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) 地域共創分野(育成型)」に採択(2,500万円×2年)(R4.10～) ・国際機構に IR 人材(教授)を新規登用し人員強化を行った。(R4.9～) ・大学戦略支援室において第4期中期計画の評価指標(KPI)の評価に資する「自己点検データ集(スタート版)」を作成し学内向けに周知した。令和5年度以降毎年度、KPIの達成状況に関する分析を行い、継続して発行予定。(R4.12) ・大学戦略支援室と各機構の IR 担当者との打合せを実施し、連携体制を確認し情報共有を実施することで大学全体の課題に対する IR 体制について確認を行った。(R4.8) <p>以上により、教学 IR 分析で入試に係る執行部の意思決定支援を行ったことや、自己点検データ集を第4期中期目標期間初年度に作成し、第4期中期計画における評価指標の整理を行ったことから実施状況を「4：十分に実施した」とした。</p>

分野	Action Plan		実施 状況	実績
大学 運 営	<p>■財政の見直し</p>	<p>既存経費見直し や、資産活用による自己収入の増、 大学全体の基盤強化に繋がる財政的 仕組みの導入</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的共通経費について、要求があった各部局と執行部および財務部でヒアリングを実施し、令和4年度は要求額から217,208千円の査定ができ、この経費圧縮により新規事業として、公用車の購入、学務情報サブシステムの導入、教育・学生支援企画室専任教員人件費等全15件を採択することができた。令和5年度については、212,230千円の査定をし(2.28現在調整中)、新規事業としてサイバーセキュリティ対策等基本計画実施経費、放射線測定器の校正、学内共同教育研究施設維持管理運営経費等8件を採択した。 ・単年度契約であったものを複数年契約に移行(2件)、類似業務の統合及び仕様の見直し(3件)、及び新規業者の開拓(1件)により、令和3年度に2,236千円の経費を削減した。 ・不動産有効活用のため、教育・研究等に支障がない範囲で本学施設を外部に一時貸付することで、コロナ禍前の水準以上の貸付料収入を得た。(令和元年度_9,948,970円→令和4年度(4~12月分)_11,554,955円) ・西田地方団地の有効活用策を検討し、土地貸付することとして、民間事業者の創意工夫による活用の企画提案を公募した。(R5.1.16~)
	<p>■外部資金の獲得</p>	<p>大型研究等の申請に関する研究IRを活用した全学的な協力体制を構築し外部資金獲得額を増加</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進機構において、研究者に関する研究成果、研究分野、研究資金獲得状況等を統合的に検索できるデータベースを作成し、研究者の外部資金獲得の支援に役立てており、令和4年度にデータベースのリバイスを行った。(R4.8~) ・研究IR業務に従事するURAが戦略的に関与して大型の競争的資金に申請し下記のとおり複数の事業に採択される等、外部資金獲得に貢献した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度 地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択(1.5億円×2年)(R4.10~) ・「令和3年度 産学連携推進事業費補助金(地域の中核大学の産学融合拠点の整備)」事業に採択(10億円)(R4.3~) ・共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)『地域共創分野(育成型)』に採択(2,500万円×2年)(R4.10~)

分野	Action Plan		実施 状況	実績
	<p>■教員業績評価の見直し</p>	<p>全学共通指標を導入した教員業績評価のPDCAサイクルを回し、教員の意欲を高めるインセンティブを付与</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学共通評価項目を用いた教員業績評価を令和3年度から実施。 ・教員業績評価に関する説明会を実施し、延べ550名の教職員が出席。(R4.12.21) ・上記説明会における質疑及び各学系に意見照会した結果を踏まえ、教員業績評価委員会において教員業績評価の見直しについて議論。(見直し案については、R5.3以降に学術研究部会議、学長理事懇談会、役員会で審議予定)
<p>大学運営</p>	<p>■新たな運営体制の導入</p>	<p>若手・女性教員の意見反映のため、大学運営に関する会議へのオブザーバー参画を実施</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の学長補佐(2名)が役員会、教育研究評議会及び学長理事懇談会にオブザーバー参画し、審議内容等に意見を述べている。 ・令和3年11月から、教育研究評議会に若手教員をオブザーバー参画させ、審議案件に対する意見聴取を行っている。(発言機会：R3.11～R5.2 16回開催中2回)(任期：半年、各期5名。選出にあたり、必ず女性を含めることとしている。)